

アニマルウェルフェア認証制度に挑戦

アニマルウェルフェアとは、動物福祉と訳され、動物の身体的・精神的幸福を目指すものです。ペットのような愛玩動物や、動物園の展示動物、各分野の実験動物、そして食糧生産に用いる産業動物であっても、この動物福祉に配慮した飼育管理が求められています。左表の「5つの自由」を原則とし、人間主体でなく、動物主体で「快適かどうか、幸福かどうか」を考えていくことが重要です。

これまで、動物科学部では、JGAP認証取得の中で「アニマルウェルフェア」レベルについて確認してきました。しかし、今年度の新しい取組として、このアニマルウェルフェアに注目し、「アニマルウェルフェア認証制度」に挑戦していきます。

この認証制度では、夏と冬の年2回、農場審査をしていただき、認証基準となるチェック項目をクリアしているかが確認されていきます。現在、動物科学部の生徒が農場を確認し、クリアできるのかチェックを進めているところです。また、同時に、生産者の方々へのアニマルウェルフェアに対する意識調査や、消費者の方々へのアンケート調査、アニマルウェルフェアを知ってもらうためのパンフレット作成も進めています。生産者だけでなく、畜産物を消費する消費者の方々にもアニマルウェルフェアを知ってもらおうきっかけ作りをしていきます。

アニマルウェルフェアのための 5つの自由

- 1 飢え・渇きからの自由
- 2 不快感からの自由
- 3 痛み・ケガ・病気からの自由
- 4 恐怖・苦痛からの自由
- 5 正常行動を発現する自由

規格外トマトによるイノシン酸増加？！

～ひとまず実験が終了！～

昨年度、規格外トマトを黒豚の飼料として給与することで、精肉中のイノシン酸含量が増加する可能性があることが分かりました。そこで今年度は、イノシン酸の増加に注目し、給与開始時期や給与量を検討する試験を実施すると共に、本当にトマトでイノシン酸が増加するのかを調査していきます。

今年度の4月から、給与量が及ぼす影響を調査することを目的に、昨年度の給与量より多くのトマトを給与しました。その結果、前回の実験同様に、イノシン酸含量は試験区で増加したものの、その増加量は前回と同程度の値となりました。その後の試験として、給与開始時期の検討を実施しました。4月下旬には出荷体重である120kgを超え、無事出荷となりました。現在、分析依頼の準備中です。給与試験はひとまず終了となりますが、この肉質分析の結果によって、次の給与試験を設定し研究を続けていきます。



久々に子豚が誕生

今年度予定されている肉豚舎の改修工事の関係で、豚の繁殖を一時的に止めていましたが、少しずつ繁殖を再開し、4月に2頭の母豚が分娩となりました。昨年度の最後の分娩は9月だったため、約半年ぶりに子豚が誕生しました。本校で飼育しているパークシャール種は、分娩頭数が平均8頭と、一般的に飼育されている豚と比べるとやや少なめです。今回の分娩では、2頭とも7頭ずつ出産しました。

パークシャール種は出荷までが8ヶ月と長く、4月に生まれた子豚たちは早くも12月の出荷になります。発育が遅れると、出荷までに1年以上かかる場合もあるため、その分コストもかかります。つまり、全頭を早く出荷完了することが重要です。

生まれてから約1か月は母豚と子豚で共に過ごし、授業の中でワクチン接種や各処置を進めていきます。次の分娩予定は8月でまた少し期間は空きますが、可愛い子豚がたくさん生まれてくることを楽しみに待ちましょう。

